

環境検討部会（第9回）議事概要（案）

1. 日 時：令和2年7月14日（火）13：30～15：30

2. 場 所：道の駅思川 小山評定館

3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今回決定した事項、（2）今後検討・確認する事項に分けて整理する。

（1）今回決定した事項

◆生物調査結果の整理について

（委員）

ワンド地点の調査結果は、新荒川排水路と切り離し、単独で取り扱うか、西清水川排水路と合わせて整理を行うこととする。

◆保全対象種について

（委員）

カマツカについては、湧水環境及び砂質の底質を好むが、排水路全体で配慮対策を行うことは現実的ではないため、当面は保全対象種には位置付けず、同様の環境を好むナガエミクリの保全を対象とした環境配慮対策地点におけるカマツカの生息状況を注視していくこととする。

（2）今後検討・確認する事項

◆生物調査について

（委員）

特に西部幹線排水路では、年度毎及び季節毎にタモロコ等の採捕数が大きく変動する傾向が見られることから、このような変動の要因を検討することも意識して今後の調査を実施されたい。

◆保全対象種について

（委員）

ナマズについては、生態系ピラミッドの上位種であり、体長が大きいことを考慮すると、ドジョウとは異なる環境配慮対策が必要と考えられる。このため、新たな保全対象種の候補とし、今回欠席した委員の意見も踏まえて保全対象種への位置付けについて決定することとする。

◆水生植物の移植モニタリングについて

(委員)

ナガエミクリは、現時点では栄養生長の段階にあるが、夏から秋にかけて花や実を付け、生育段階が変わることから、この段階で定着できているかが重要となることに留意してモニタリングを継続すること。

◆水生植物の移植モニタリング結果の活用について

(委員)

今回のモニタリング結果では、一部の移植先において底質ごとナガエミクリが流失してしまっているが、一度流失しても、根だけが残ってそこから再生するような構造となるように配慮されたい。

(委員)

今回のモニタリング結果から、ナガエミクリの生育に適した場所が明らかになると思われる。今回の結果を踏まえて、今後の対策工の配置等を検討されたい。

◆西清水川排水路の環境配慮対策について

(委員)

階段工については、落差や傾斜等の条件を明らかにした上で、他地区の成功事例を踏まえて設計すること。

(委員)

開口部については、縦断方向への延長や、複数箇所の設置、維持管理や通水機能を考慮した配置等、大きさや形状、配置について各委員より意見が出されているところであり、これまでの議論の積み重ねも踏まえて判断することが必要と考える。8月下旬に環境検討部会を改めて開催し、本件について議論することとする。

◆西部幹線排水路の環境配慮対策について

(委員)

保全対象及びその生育・生息に配慮した対策内容について、検討を進めること。

例えば、西部幹線排水路下流部周辺は、コウノトリの営巣に近い場所であることから、餌となる魚類の生育・生息環境に考慮する等。